



YouTube をご覧の皆さま、こんばんは。昨年 私に孫が生まれまして、おじいさんになってしまいました。孫を見ていると何とも言えない気持ちが湧いて来るんですけど、やがてこの子が大きくなって、キリストとしっかり繋がって、神を畏れ、人に仕える人になって欲しいなと心から思っています。

私たちの東住吉キリスト集会では、毎週日曜日に子供向けのプログラム『ジョイキッズ』をやっています。子供にどうやって伝えたらいいかわからないというご両親がおられたら、コロナが明けたら、ぜひ連れて来てください。

ところで、キリストを信じる信仰について私は宣べ伝えているんですが、世界を見渡すと、キリストを自由に信じるのが禁じられている国がいくつかありますね。

いや、増えてると言ってもいいかもしれません。キリストを信じることは禁じているけど、その国の独裁者の個人崇拜を強制する国が増えているように思います。

今 日本は自由で平和で、「この子が大きくなった時には幸せになって欲しい」と私は心から思うのですが、今私たちがもらっているこの自由や平和が、5年後・10年後続いているという保証は全然ないんですね。

今、ヨーロッパで凄い事、とんでもない事が起ころうとしているのを、報道で既にご存知と思います。ウクライナをロシア軍が3方から取り囲んでいて13万人ですよ。日本の陸上自衛隊全員で15万人ですよ。13万のフル装備の陸軍部隊がウクライナを取り巻いて軍事演習をやっている。

前回クリミア半島が取られた時は、ソチオリンピックから4日目だったんです。

ソチオリンピックが終わって4日目に軍事演習やって、そのままズルズルとやって、乗っ取ってしまったということで、ロシアには成功体験があるわけですね。

色々なロシア専門家のお話を聞くと、「実はこれは、外交交渉を有利に持つて行くための威嚇に過ぎない。ウクライナの NATO 加盟阻止をアメリカに確約させるために脅しを掛けている」という意見が多いです。—「戦争起こすのが嫌なら、“ウクライナが加盟申請しても、我々は NATO に入れない” とひと言約束してくれたら、それで済むことだから」と、外交交渉のカードとしてそれをやっているのに過ぎないから、まあまあ本気で戦争する気はないでしょう—と。

私は「そうかもしれない。だけど、相当やばいんじゃないか」と思ってるんです。理由は3つ。

■プーチンはもう70前ですが、あの年齢になると“レガシーを残したい。政治家として歴史に名を残したい”という誘惑があるんですね。

プーチンは昔から1つ夢見ていることがあります。それは偉大なるロシアの復興なんです。

彼は東ドイツ崩壊の時、KGB で東ドイツで勤務していました。ベルリンの壁崩壊の時に東ドイツにいたわけで、国が壊れる音を聞きながら去って行くという。あれから、あれよあれよという間にソ連が小さく縮んでしまって、惨めなことを経験しているんです。偉大なるロシアの復興。

ウクライナを影響下に置くことができるなら、ロシアは更に南下しやすくなりますね。

聖書を見ると**エゼキエル戦争**というのがあって、ロシアがやがて、いくつかの同盟国を率いてイスラエルに攻め込んで来るという預言がありますが、ウクライナを持っているのといないのでは全然違います。

もしウクライナが NATO に入って立ち上がるならば、イスラエルに入る前に NATO 加盟国を通過しなければならない。これは非常にやりにくいし、エゼキエル戦争において、ロシアのイスラエル攻撃を集団安全保障条約でくい止める軍隊が出て来るはずですが、**エゼキエル書**を見るとそんなのは出て来ない。みんな傍観者で見てるんですよ。これ、もしかしたら、エゼキエル書にすごく近づいて行くことになるのではないかな、と私自身は思います。

■単なる外交カードのために軍隊を揃えているとするなら揃えすぎです。

この 13 万の軍隊は人間だけ並べているのではなく、戦車・重火器など近代戦争の兵器体系一式を極東から移しているわけですよ。移動のために莫大な軍事費用が掛かっている。

それだけの費用を掛けて、しかもウクライナを NATO に入れないという確約もなく、そのまま黙って軍隊引き上げたら、プーチンもたないと思いますよ。そんな自殺行為を彼がするだろうか。

文字通りの“見せるだけ”なら多すぎるんですね、この軍隊が。

本気でやるだけに、本気で制圧するような兵力を整えているというところが不気味です。

■私が一番引っかかっているのは、今回ロシアは、西側からの会談申し入れに対して誠心誠意付き合ってるんです。非常に低姿勢で、バイデン大統領が「ちょっと待てよ」と言ったら「電話会談受けます。」

フランスのマクロン大統領が「会談しましょう」と言ったら「会談しましょう。」

非常に低姿勢で、誠意をもって、西側が提案する協議に付き合ってるんですよ。

だから、やばいと思うんです。

見せるだけなら傲慢な態度で、脅して、「引いて欲しかったら！」ということで、むしろ不誠実になると思うんですけど、「ロシアはこんなにも誠実に低姿勢でやっているのもかわらず、アメリカは我々の要求を呑まなかった」ということを大義名分にして、ウクライナに攻め込むことを正当化できるんじゃないですか？

今日プリンケン国務長官がハッキリ言いましたね。「アメリカはウクライナの NATO 加盟を阻止しない。」これで、両方とも降りようがないですよ。

ウクライナの国旗はツートンカラー。上半分がブルーで下半分は黄色です。

ウクライナはデコボコがなくて見渡す限り平らで、上は青空、下は黄金色に輝く小麦畑の穀倉地帯。

それを国旗に表しているんですね。

穀倉地帯は冬になると雪が降り、それが解けてぬかるみになる。そしたら戦車は走れません。

しかし、これから 2 月で極寒の季節になると、ぬかるみが完全にカチコチに凍るので、戦車がスムーズに移動できるんです。つまり、真冬こそはロシアがウクライナに攻め込む絶好の機会です。

長くなればなるほど、ロシアは軍事費の消耗で疲弊するでしょう。

何も取らずにそのまま引込むということがあるだろうか？

でも、ウクライナって地球の裏側の話やし、我々日本には関係ないって！いや、関係あるって。

もしロシアがウクライナに攻め込めば、アメリカもヨーロッパもみな、ウクライナ・ヨーロッパ戦線に注力しますよね。その隙を突いて中国が行動を起こさないと、誰が言えるでしょう？

中露同時行動に今 準備すべきですよ。日本自身が今 強靱化していかなければならない。

岸田さんには、もう頼むからそれをやって欲しい。

そして 5 年後も 10 年後も、日本のこの自由が守られて、聖書の言葉を宣べ伝える自由をぜひ確保していただきたい、という思いでいっぱいです。

さて、今日お話しするのは**艱難時代前半 3 年半**のことです。“塵も積もれば” じゃないんですけど、このざっくり黙示録も 30 回を迎えました。今日は **17 章**。あまりにも内容が豊富なので、本当のことを言えば 4 回に分けてもいいくらいですが、何しろ “ざっくり” と言っているので 2 回に分けたいと思います。

今日見る箇所を最初にざっくり申し上げますと、艱難時代は 7 年間続きます。7 年間の前半 3 年半の間、反キリスト帝国をも凌駕する世界的な組織が全人類を支配下に置きます。反キリスト政府の 10 か国の国家連合体をも従えるような強力なこの組織は何か？ 世界統一宗教です。世界統一宗教が 3 年半にわたって全世界の人々を支配しますが、3 年半経つと、反キリストの 10 か国連合によって倒され滅亡します。ここまでを今日はお話します。

黙示録 17 章

1. また、七つの鉢を持つ七人の御使いの一人が来て、私に語りかけた。

「ここに来なさい。大水の上に座している大淫婦（だいいんぷ）に対するさばきを見せましょう。」

また。これは、ここで話題が変わったということです。

黙示録は基本的には時系列で並べられ、時代順番に書いてあるのですが、4 回だけ挿入があるんですね。時代順番の流れで話している言葉の中で、登場人物や組織について、より詳しく説明する挿入箇所が 4 回あるのです。17 章 1 節から 19 章 11 節までは 4 回目の挿入です。

この挿入の中に書いてあることが、「ここに来なさい。大水の上に座している大淫婦に対するさばきを見せましょう。」

今日は**大淫婦に対するさばき**です。今まで黙示録を説明する時、何度も繰り返して申し上げて来たことは、**聖書は字義通りに読む**ということでした。勝手に「これは たとえなんだ」と解釈して、そして自分の空想を当てはめていくと、聖書が言いたいことが伝わらなくなる。

だから黙示録で、イスラエルと出て来たらイスラエルのこと。教会と出て来たら教会のこと。

144000 人と出て来たら文字通り 144000 人のこと。比喩に取ったらダメなんです。書いてある通りに受け止めることが大事なんです。

しかし 17 章では、その原則が当てはまらない箇所がいくつか出て来る。

ここは比喩なんだ。比喩として読まなければならないんだ、という箇所が出て来るんですね。

その場合は比喩だと分かるように書いてあって、その比喩の説明がすぐ近くの節に解説されてるんです。なので、どの部分が比喩かということをあぶり出しながら、ご一緒に考えたいと思います。

いきなり比喩です。**大水の上に座している大淫婦に対するさばきを見せましょう。**

大淫婦は、とんでもないプレイガールのことじゃないんです。特定の 1 人の女性のことではありません。

18. あなたが見たあの女は、地の王たちを支配する大きな都のことです。つまり人間ではないんです。

艱難時代の前半 3 年半、世界は何か国あるでしょう？ 10 か国だけです。

今は 208 の国がありますが、艱難時代に入る前に、世界は 10 の国家連合になります。

地の王たち（10 人）を支配する大きな都。これはバビロン。

大淫婦はこの大きな都を中心に世界を支配する組織のことで、遊び人の女の人のことじゃないんですね。

では、何のことか？ **大淫婦の淫**は “みだら”、姦淫（かんいん）の淫。

2. 地の王たちは、この女と淫らなことを行い、地に住む人々は、この女の淫行のぶどう酒に酔いました。

ずいぶんいかがわしいことが予測されるわけですが、**淫らも淫婦も姦淫の淫**。

旧約聖書では、夫のある女性が他の男性と関係を持つことを姦淫と言います。それを神とイスラエルの関係になぞらえて、イスラエルが口先で「イスラエルの神を信じます」と言いながら、他の神々と宗教的結びつきを持っている時、それを霊的姦淫と言うんです。姦淫は、夫がない女性は犯すことができない犯罪です。特定の男性と結婚関係という契約を結んでいる女性が、パートナー以外の人と関係を結ぶことが姦淫なんですね。

同じように、神に対する姦淫は、神と契約関係にある者しか犯すことができない罪。神と契約関係にある者は、旧約ではイスラエルだけ。新約では、キリストの新しい契約に生きる共同体である教会。つまり、イスラエルと教会以外は淫婦にはなれません。初めから偶像礼拝しかしていない民族は淫婦になれない。神の目から見たら、淫婦にはなれないんです。

ここで言っている**大淫婦**は、口ではキリストを信じると告白しながら、世界のあらゆる宗教・偶像を取り込むキリスト教会のこと。別の言い方では、携挙の時に引き上げられなかった教会のことです。携挙は艱難時代の前に起こりますが、その時は、キリストを信じている人たちはみな空中に引き上げられる。クリスチャンたちが忽然と姿を消すと約束されています。

しかし、引き上げられるのはキリストを信じている人たちだけです。教会堂で聖書を開いてお説教をしているかもしれないけど、本当には聖書の真理を信じていない人たちは自称クリスチャンで、本物のクリスチャンではないので残されます。レフトビハインド。

先日 コメントが入ってました。この方が行っている教会に、数年前 非常に人格的な新しい牧師さんが来ました。若くて話題が豊富。話が面白い。兄弟姉妹（信者たち）に対してすごく親切。人柄が紳士。「なんて良い牧師さんが来てくれたんだ！」 教会は活況を呈しました。そうして3年経った日曜日のメッセージで こう言ったんですね。「皆さん、イエス・キリストは神ではありません！ 私はそれを伝えるためにここに来たんです。」クリスチャンたち、ビックリして「なんてことを言うんだ！」 結局この人は教会から出て行くんですが、一緒について行った人たちがごっそりいたそうです。

クリスチャンと名乗っていても、本当のクリスチャンが分かりません。牧師だからといっても、本当のクリスチャンかどうか分かりません。きれいな教会堂にいて活動しているからといっても、正しいかどうか分からないんですね。

さて、この大淫婦は3つのものの上に座ってます。

■**大水の上**（1節） ■**獣の上**（3節） ■**七つの山の上**（9節）

七つの山の上に座っている意味は、説明するのに非常に時間が掛かるので次回に回します。今日は、大水の上と獣の上に座っている意味について説明しますね。

■大水の上に座っている

1.大水の上に座っている大淫婦に対するさばきを見せましょう。大水とは何か？

15.また、御使いは私に言った。「あなたが見た水、淫婦が座しているところは、もろもろの民族、群衆、国民（くにたみ）、言語です。」

大水とは全世界の人々。**大水の上に座している**とは、全世界の人々の上に君臨しているということです。

世界には色々な宗教の人たちがいるのに、どうやって全世界を宗教的に支配することができるのか？
どのようにして それぞれの宗教を捨てずに、この背教の教会に加わることができるのか？
どうやって宗教そのものを統一するのか？ それは後で言います。

■ 獣の上に座っている

3.それから、御使いは私を御霊（みたま）によって荒野（あらの）へ連れて行った。

私は、一人の女が緋色（ひいろ）の獣に乗っているのを見た。

その獣は神を冒瀆する名で満ちていて、七つの頭と十本の角を持っていた。

一人の女は大淫婦。獣は緋色。緋色はただの赤じゃなくてスカーレット。ちょっと黒が混じった赤。王の色です。非常に高貴な人だけが身に付けることができる色。その獣に乗っている。

その獣の特徴は、神を冒瀆する名で満ちていて、七つの頭と十本の角を持っていた。

この獣については既に出て来ました。黙示録 13 章で解説しましたが、簡単に復習します。

獣には 2 つの意味があります。個人を指す時は反キリスト。組織を指す時は、反キリストが支配している帝国。七つの頭と十本の角は、初め 10 の国家連合だけど、後半 3 年半の時 3 つの国が抜け落ちて 7 つの頭になる。この意味は次回お話しします。

要するに、（大淫婦は）艱難時代において世界をコントロールしている 10 の国家連合体の上に座っているんです。世界統一宗教が国家連合体に与しているのではなく、国家連合体／政治組織のほうが世界統一宗教の乗り物になっている。上になっているのは大淫婦のほうです。

艱難時代前半 3 年半において、世界を本当にコントロールしているのは世界統一宗教ですが、それが可能なのは 10 か国の政治組織が下から支えているから、でもあるんです。乗っかっているとも言えるし、下から支えてもらっているとも言える。前半 3 年半、世界統一宗教と 10 か国の連合体は持ちつ持たれつの関係。共存共栄。しかし、主導権を握っているのは大淫婦です。

4.その女は紫と緋色の衣をまとい、金と宝石と真珠で身を飾り、忌まわしいものと、自らの淫行の汚（けが）れで満ちた金の杯を手に持っていた。

紫と緋色の衣をまとい、金と宝石と真珠で身を飾り。非常にリッチなんですねえ。おそらく献金という形でしょう。全て集金マシンのようになって、世界の富を吸い込むような組織になっているようです。

忌まわしいものと、自らの淫行の汚れで満ちた金の杯を手に持っていた。

金の杯。旧約聖書で、イスラエルが神に近づくために備えられたテント張りの施設を幕屋（まくや）と言います。テント造りの礼拝所で、その中に色々な器具があります。

その器具や幕屋の構造が、“神とはいかなる方か”を学ぶための視覚教材になってるんですね。

その中で純金の器具は全て、神の栄光やキリストの神性を表すひな型・教材として使われているのですが、ただの金（純金ではない金）の場合は、イスラエルの証しに関するものがほとんどなんですね。

この女は金の杯を手に持っていた。その杯には 2 つのものが入っている。

それは、偶像と他の神々を取り入れたこと。それによって、自分の本質を証ししているということになると思います。

そして、ここからがポイントですね。

5.その額には、意味の秘められた名、「大バビロン、淫婦たちと地上の忌まわしいものの母」という名が記されていた。

意味の秘められた名というのは、あまり良くない訳だなと思います。これは**奥義**ということです。

他の箇所では奥義（ミステリオン）で、“意味が秘められている” という意味はありません。

新約聖書で奥義という言葉が使われる時は、旧約時代には秘められていたけれど、新約になって意味が明らかにされた。意味の説明があること。それが奥義です。

意味の秘められた名だったら、ずーっと意味が分からないまま。これは秘められてない。

“秘められていたけど明らかにされた” という意味です。

ということで、大淫婦の本質は**大バビロン**。

淫婦たちと地上の忌まわしいものの母。母は生みの親という意味で、偶像・異教のルーツはバビロンと言っているんです。

バビロンと言われた時、生まれて初めて聖書を読むのがヨハネの黙示録 17 章の人にはチンプンカンプンですが、旧約聖書から続けて読んでいる人は「バビロン？ ああ、あれか」と閃くんですね。

“聖書で最初にバビロンが登場するのはどこか、そのバビロンはどのようなものとして紹介されているのか” を知ることによって、ここでの言葉の意味が分かります。それを知っていることを前提として語られているからです。そこで、バビロンという言葉が出て来る箇所を見ます。

創世記 10 章

8. クシュはニムロデを生んだ。ニムロデは地上で最初の勇士となった。

9. 彼は主の前に力ある狩人であった。

それゆえ、「主の前に力ある狩人ニムロデのように」と言われるようになった。

10.彼の王国の始まりは、バベル、ウルク、アッカド、カルネで、シニアルの地にあった。

ニムロデはヘブライ語です。今 イスラエル人に、ニムロデという名前が結構人気あるんですよ。

なんでなん？ これ反逆者という意味ですよ。なんでそんな名前を息子に付ける？ 私の友人も息子にニムロデと付けてる。なんかカッコイイと思ったんかもしれませんが。

ニムロデは 4 つの都市連合を束ねている人物で、都市の筆頭がバベル。このバベル（ヘブライ語）がバビロン（ギリシャ語）です。

シニアルの地は、私たちが高校時代、シュメールと習ったはずですよ。“人類文明発祥の地はシュメールだ”。2017 年版聖書の欄外注には“シュメール”と書いてますね。

このバベルの王が、**創世記 11 章**でバベルの塔を建てるのです。

その目的は **11:4 彼らは言った。「さあ、われわれは自分たちのために、町と、頂が天に届く塔を建てて、名をあげよう。われわれが地の全面に散らされるといけないから。」**

頂が天に届く塔。天は神がおられる所。そこに人間の努力で上（のぼ）っていこう。

なぜこんなに天高く積み上げようとしたのか？

『ヨセフスのユダヤ古代誌』という本に、「この時、彼らにはノアの大洪水の記憶があった。神に逆らったら、大洪水を起こされて人類が滅亡してしまう。しかし高い塔を建てたら、洪水が来ても逃れることができるだろうと思った」と書いてありました。それも 1 つの解釈だと思います。

5.そのとき主は、人間が建てた町と塔を見るために降りて来られた。

強烈な皮肉ですね。人間から見たら天に届く。しかし神は、降りて来られた。
人が到達できる最高点も、神から見ると、降りていかないとだめな低い所のものではない。

そして彼らは、言葉がバラバラにされて散らされました。

9.それゆえ、その町の名はバベルと呼ばれた。

そこで主が全地の話しことばを混乱させ、そこから主が人々を地の全面に散らされたからである。
バベルの意味は混乱なんですね。

さて、今から申し上げるのは、聖書のどこにも書いてないことです。
しかし、バビロニアの神話や碑文、或いはウィキペディアの古代中東の宗教の項目をずっと漁っていくと出て来る話を、予備知識としてご紹介します。

ニムロデにはセミラミスという名前の奥さんがいました。ニムロデはある時イノシシ狩りに出たのですが、牙に掛かって死んでしまった。「大王が亡くなられた！」今は亡き夫を悲しんだセミラミスは40日間喪に服します。ところが不思議なことに、夫が死んだのに、この40日の間に身ごもったのです。普通に考えると、誰かと関係したんでしょう。しかし、セミラミスは言うのです。
「これはニムロデが生まれ変わって、私の体の中に乗り移った。超自然的に与えられたのだ。」

セミラミスは男の子を産みました。その子の名前はタンムズ。
彼はニムロデの生まれ変わりで、ニムロデに等しい者であり、やがてこの地上の悪を滅ぼす救い主。
タンムズは12月25日に亡くなりますが、吊いの儀式後3日目に復活します。

セミラミスとタンムズは非常に親密で2人で1つ。バビロニアの様々な宗教の絵やレリーフで、母子一体、お母さんが赤ちゃんの男の子に乳房を含ませたり、抱っこしたりしているものがよく出て来るそうです。

セミラミスは天を司る女王。タンムズは天にある太陽。この2人は最強のコンビで母子一体像。
これが、古代バビロニアの宗教の原型と言われています。
強力な女神とその息子の神がいて、彼らは太陽礼拝に関係している。
この古代バビロニア宗教が、言葉がバラバラにされた人々によって世界中に広まっていったんですね。

オックスフォード大学のラングドンという古代アッシリア学の考古学者が、「バビロニアの色々な碑文を研究した結果、今までの定説をひっくり返すようなことが分かった」と論説している本があります。
「『元々人間は、住んでいる所にそれぞれの神がいて多神教だったが、文明の発達にしたがい、多神教ではなく、たくさんの神々の中から1つだけの神を選んだ。ゾロアスター教みたいに。そして最終的に、一神教に進化していった。初めは多神教だったけど、高度文明を身に付けるにしたがって一神教に変わっていった』と説明されていた。しかし、碑文の分析の結果、元々人類は唯一の神を信じていたが、後で多神教になっていった。」
残念ながら英語なんです。入手しようと頑張ったんですが、要約版しか読むことができませんでした。

世界中の色々な土着宗教に色々な神話があるけど、よく似てるというんです。
必ず女神が出て来る。女神と近い家族がいる。それは男の子。
世界の土着宗教の神話を要約すると、ものすごい共通点がある。色々な宗教は、元々1つの原型となるような宗教があったのではないかとされています。

これがイスラエルの中でも明らかになっているんです。

エレミヤ書 7:18 子どもたちは薪を集め、父たちは火をたき、女たちは麦粉をこねて『天の女王』のための備えのパン菓子を作り、また、ほかの神々に注ぎのぶどう酒を注いで、わたしの怒りを引き起こそうとしている。

これはユダヤの国が滅亡する前、預言者エレミヤが神からことばを受けて語っているんですが、当時のエルサレムでどんな宗教が横行していたのか。

天の女王はバビロニアの女王イシュタル。イシュタルがカナンに入ってアシュタロテ。

ギリシア神話でアフロディテ。ローマでビーナス。イシュタルの元を辿るとセミラミス／天を司る女神。

この天を司る女神が何かのトラブルでお隠れになると世界は闇になり、出て来ると光が戻る。

ちょっと、どっかでこの話聞いたことないですか？ 天岩戸（あまのいわと）。それはまた後で言います。

18節を見ると、天の女王を一家総出で礼拝している。子どもたちは薪を集め、父たちは火をたき、女たちは麦粉をこねて。ユダヤ人が家族を挙げて礼拝しているのは いったい誰なのか？ 天の女王だ！

イスラエルの人たちはこの時点において、創造主への信仰を完全に捨てているのではないんです。

それも信じてます。同居。ヤハウエなる神も信じてる。だけど、アシュタロテも信じてる。

つまり、聖書が語っている創造主は多神教のたくさんの神々のうちの1つ。なんでもオツケーの状態。

しかし、天の女王を拝む礼拝形式に神殿男娼・女娼がいて、姦淫（性的結びつき）をするということが出て来るんですね。

エゼキエル書 8:1 第六年の第六の月の五日、これを覚えておいてください。

14.それから、この方は私を主の宮の北の門の入り口へ連れて行かれた。

するとそこには、女たちがタンムズのために泣きながら座っていた。

15.この方は私に言われた。「見たか、人の子よ。あなたはなおもまた、これよりも大きな忌み嫌うべきことを見る。」

タンムズが出て来ましたね。タンムズはセミラミスの息子、ニムロデの生まれ変わりと言われている人。

タンムズは太陽と考えられていた。夏至を境に昼間の時間、太陽が出ている時間が短くなりますね。

中東、特にバビロニア・メソポタミア地方では、毎年夏至になると太陽が死に始めたと捉えて、6日間喪に服しました。つまり、死につつあるタンムズのために6日間泣くんです。

バビロニア宗教のタンムズ礼拝をイスラエルがやっている。

どこでやっているかが問題です。この方は私を主の宮の北の門の入り口へ連れて行かれた。するとそこには…タンムズ礼拝はエルサレム神殿の中で行われていたんです。

エルサレム神殿で神を礼拝しながら同時に、タンムズを拝んでいる。

16.それから、この方は私を主の宮の内庭に連れて行かれた。

すると、なんと、主の神殿の入り口、すなわち、玄関広間と祭壇との間に二十五人ばかりの人がいた。

彼らは主の神殿に背を向け、顔を東の方に向けていた。東の方を向いて、太陽を拝んでいた。

神殿幕屋は西向きに建っています。至聖所は西向き。すなわち、イスラエルが神を礼拝する時、西に向かってお辞儀をし、東にはお尻を向けています。ところが、主の神殿に背を向け、顔を東の方に向けていた。

なんで？ タンムズが太陽神だからです。

形式としてはエルサレム神殿で礼拝しているけど、その中身は換骨奪胎（かんこつだったい）、骨抜きにされていて、全く異質のものがそこで拝まれていた。これはイスラエルだけではなく。

黙示録 2:18 また、ティアティラにある教会の御使いに書き送れ。

教会はクリスチャンの共同体のこと。建物のことではなく、キリストを信じている人たちの共同体のことです。ティアティラという所にある教会に向かって、こう言われています。

20.けれども、あなたには責めるべきことがある。あなたは、あの女、イゼベルをなすがままにさせている。この女は、預言者だと自称しているが、わたしのしもべたちを教えて惑わし、淫らなことを行わせ、偶像に献げた物を食べさせている。

21.わたしは悔い改める機会を与えたが、この女は淫らな行いを悔い改めようとしな

これは誰に向かって言っているのか？ **ティアティラの教会**です。教会の中の淫らな行いを悔い改めようとしなかった。その中で、**偶像に献げた物を食べさせている**というのは、偶像礼拝の祭りが行われていたという意味です。祭りの時は食事を伴います。建物は教会堂だけど、その中で偶像の神々に献げた物を食べていた。

わたしのしもべたちを教えて惑わし。惑わしは、別の聖書では“騙し”。騙した。

クリスチャンたちを騙して、間違った教理を振り撒いている女預言者がいる。それは**イゼベル**だ！

イゼベルは、旧約聖書時代にイスラエルに偶像礼拝を持ち込んだ女です。つまり、黙示録が書かれた初代教会の中に、既に聖書の真理を否定する教理が持ち込まれている教会があった。

22.見よ、わたしはこの女を病の床に投げ込む。また、この女と姦淫を行う者たちも、この女の行いを離れて悔い改めないなら、大きな患難の中に投げ込む。

大きな患難はメガレシリプテオースという言葉で“大艱難”のこと。艱難時代です。

「ここから離れようとしな

いなら、あなたがたは携挙されないで、そのまま艱難時代に入りますよ。」

艱難時代に入る教会のことですね。それが少数派でないとしたら大問題です。

本物のクリスチャンもいますが、そうでない者たちもいる。教会なのに地上に残されてしまう人々は、自称クリスチャンでしかなかったということなんですね。

この自称クリスチャン・偽クリスチャンが中心になって、世界統一宗教のセンターとなります。

世界には色んな宗教があるのに、どうやってまとめるのでしょうか？

1つ言うと、それぞれの宗教を否定しないで、そのまま受け入れる教理に変える。

僕は20年近く前にメキシコに行きました。メキシコ博物館とか色々巡らしてもらって、地方にも行き、大学でも講演させていただきました。メキシコシティの北の方にテペヤックの丘があります。

そこにごっついカトリック教会が建っていて、褐色のマリア像が、またごっついのが建ってるんですね。テペヤックの丘は元々、トナンツィンというメキシコの先住民／インディオたちが拝んでいた豊穡の女神が祀られていた場所です。彼らは「この豊穡の女神は何でも言うこと聞いてくれる」ということで崇拜していた、と言われて

います。なぜそこにカトリック教会が建っているのか？ トナンツィンは「マリアが姿を変えて、我々の先祖に現れてくださったのだ」と教えられている。「あなたがたが拝んで来た偶像は捨てなければならない！」じゃなく、「あなたがたの先祖が拝んでいたのは、実はマリア様が姿を変えて現れてくださったのだ。」

だからマリア崇拜／マリアに祈ることは、先祖たちの信仰を否定するのではなく継続することだから、何にも心を痛める必要はないんだよ。」

これなら抵抗ないんじゃないですか？「イエス以外に神は無い！」じゃなく、「イエス以外に救いはない！」じゃなく、「今まで慣れ親しんで来た先祖代々の宗教をそのまま継続してオッケー！」何も捨てるものはないので、抵抗なくそこに入ることができるじゃないですか。

日本神話と言ったらやっぱり記紀（きき）ですよね。古事記と日本書紀。

特に、古事記には2大ヒーローがいます。アマテラスオオミカミとスサノオノミコト。

アマテラスは高天原（たかまがはら）におられて、おられてというか、天の女王ですよ。お隠れになると闇になります。スサノオノミコトは乱暴者だけど、最終的には救い主になって蛇（ヤマタノオロチ）をやっつけます。世界中の土着信仰の中に、ソックリの話がいっぱいあるんですね。

特に保守論客と言われる人たちのYouTube 番組などを見ていると「ああ、なるほどなあ、なるほどなあ」と色々教えられることが多くて、特に今の国際情勢における日本のあり方については、私も同意するところが多いんです。が、こんなに賢く色んなことが分かっているのに、最後の最後にどこに行くかというところ、「だから日本は自分たちのアイデンティティを守るために、アマテラスに戻らないとダメなんだ!」

なんでそうなる？ 途中までむちゃくちゃ賢いのに、なんでそんな実在してないものにフツと行く？

途中まで論理的で、ゴールが非論理的だから、もう僕はバーン！ひっくり返るんですよ。

でも、そうですね。アマテラス、実は姿を変えたマリアだったんです。

となると、どうでしょう？ 世界中の宗教を1つにまとめるというのも不可能ではない。

世界統一宗教の1つの手腕はそこにあると思うんですね。

黙示録 17:4 その女は紫と緋色の衣をまとい、金と宝石と真珠で身を飾り、忌まわしいものと、自らの淫行の汚れで満ちた金の杯を手持っていた。

聖書で忌まわしいものは、例外なく偶像のことです。教会の中に偶像が安置されるようになります。

アフリカには、アフリカ土着の神々が祀られている教会ができるでしょう。

自らの淫行の汚れとは、聖書の福音を骨抜きにすることがあると思います。

では、どんな宗教でもオッケーということで受け入れていく このバビロン化した教会は、あらゆる信仰者に寛容かということ、そうではないんですねえ。

6.私は、この女が聖徒たちの血とイエスの証人たちの血に酔っているのを見た。私はこの女を見て、非常に驚いた。

あらゆる信仰者を「オッケー、オッケー」と受け入れるんじゃない、ある信仰者たちに対しては死をもって報います。それは、**聖徒たちの血とイエスの証人たちの血。**

彼らは艱難時代前半3年半にクリスチャンになる人たちです。その人たちの信仰だけは許さない。

世界中の多くの人々が統一宗教を信じていく中で、なぜ艱難時代にキリストをまともに信じる人々が起こされるのか？ 144000人のユダヤ人伝道者たちが語ってくれるからです。彼らの説得力はハンパない。

同時に、この人たちには携拳の記憶が残っている可能性があります。自分の身近な人たちが多数、忽然と姿を消した。それをずーっと「なぜなんだろう、なぜなんだろう」と。

更に黙示録を通して、聖書の預言が目の前で次々実現していくんですね。その結果、世界統一宗教の正体を見破るんです。「これは真理ではない。」彼らはこの偽教会の正体を見破って反対します。その結果多くの人が殉教する。実は、歴史上最も多くのクリスチャンを殉教させた団体は教会です。

先日 ある方から翻訳本を頂いたのですが、ウィクリフ（1320頃-1384）という人の伝記でした。彼は聖書を初めて英語に翻訳した人です。それまで聖書はギリシャ語・ヘブライ語・ラテン語・チェコ語。ウィクリフはイギリス人。「イギリス人やイギリス国王が母国語で聖書を読めない。だから、カトリック教会が言ったことを鵜呑みにするしかない。これはおかしい！ 免罪符で、金で罪の赦しを買えるなんておかしい！ 聖書を翻訳すべきだ」ということで翻訳したんです。ウィクリフ聖書（*1384年完成）。

その聖書の前書きにこう書いてあります。

「聖書は人々に、人民の 人民による 人民のための政治を実現するために必要なものである。」これを暗記していたのがリンカーン大統領で、ゲティスバーグの演説の時に思い出して引用したんです。リンカーンのオリジナルではなく、ウィクリフ聖書の前書きなんですね。

ところで、ウィクリフ聖書を読む人、どうなったと思いますか？ 死刑ですよ。ウィクリフ聖書や彼の著作物を読むのは死に値する。それが決定した時、彼は既に死んでいたのですが、墓を掘り起こされ、遺体を地面からズルズル引き出され、もう1度焼いて、灰をテムズ川に流された。「聖書を母国語で読めるようにすることは極刑に値する」と誰が決めたんですか？ カトリック教会です。

ウィクリフの影響を受けたのがチェコ人のヤン・フス（1369頃-1415）。彼は「聖書のどこに、そんな間違ったことが書いてあるんですか？ 聖書のみ立つべきだ」と言って、ボヘミアで宗教改革ののろしを上げていくのですが、最終的に杭に縛られて火あぶりになりました。その時 火力をもっと上げようと、薪を次々くべていったのは年老いた老婆でした。そうすることが神が喜ぶことだと思って、死刑に加担したんですよ。

ヤン・フスの死後ちょうど100年経って、マルティン・ルター（1483-1546）が1517年 宗教改革をやりまします。「聖書のどこに書いてあるんだ？」と“95か条の質問状”を書くのですが、「撤回しろ！」「いや、撤回しません。」カトリック教会の圧力を受けた神聖ローマ帝国皇帝が、帝国議会に彼を呼び出して「撤回しろ」と言うのですが、「私はここに立つ。神よ、助けてください」と言った、とされています。彼は「この人物の全ての権利を剥奪する」という判決を受けました。誰かがルターを闇討ちで襲って殺しても、罪に問われないということです。斬首しようが暗殺しようが、どんなに酷いことしようが、彼には権利は一切ないから誰も罪に問われない。

ルターが言ったこと「信仰のみ」。でも、正しい信仰はどうやったら分かるだろうか。聖書を読まないと分からない。聖書のみ。彼は聖書をドイツ語に翻訳していきました。

熱狂した大学生たちがボディーガードを買って出て、帝国議会の行き帰りに「僕たちが守ります！」と、屈強な学生たちがガードするのですが、判決を受けた帰り、ヴィッテンブルグの森で、覆面した騎士団に襲われて拉致されます。プロの騎士団に襲われたら、素人の学生たちは為す術がない。

誘拐したのはザクセン公でした。ザクセン公はルターの支持者だったんです。でも、皇帝が権利剥奪と言っているので堂々と守ることはできない。それで災難に遭ったかのように見せかけて、自分の城に匿ったんですね。その城の中で、聖書をドイツ語に翻訳しました。それが今の『現代ドイツ語訳聖書』の基礎になっていると言われています。

いつの時代も、ニセ新興教団が本物の少数派の信仰者たちを弾圧していた、というのが今までの歴史にあったのですが、それをもっと大きなスケールでやらかすのが艱難時代の前半3年半です。

ところが、無敵を誇った世界統一宗教も、やがて終わりを迎えます。

17:16 あなたが見た十本の角と獣は、やがて淫婦（世界統一宗教／残された教会）を憎み、はぎ取って裸にし、その肉を食らって火で焼き尽くすこととなります。

やがて（3年半我慢して、3年半が経過した時）、憎み、はぎ取って裸にし。金や宝石・真珠で身を飾っている、それを全部はぎ取る。

これはおそらく、内部情報を全て明らかにするということだと思います。

これだけの富を集めるために、どれだけ汚いことをやって来たか。その内部情報を天下衆目の前に全部明らかにして、「こいつらの実態はこうだったんだ！」ということ丸裸にした上で、政治権力が牙を剥いて、その肉を食らって火で焼き尽くすこととなります。跡形もなくなる。

なぜ3年半我慢したのか。3年半の間に、全世界を宗教的にコントロールするシステムを彼らに作らせた後、完成したそのシステムのてっぺんに反キリストが乗っかるためです。

もう役割は終わった。それで、この世界統一宗教が滅びます。

その理由は **17.それは、神のことばが成る時まで、神はみこころが実現するように王たちの心を動かし、彼らが一つ思いとなって、自分たちの支配権を獣に委ねるようにされたからです。**

王たちが大淫婦に襲いかかるのは、神の御心を行おうと思っているのではない。

自分たちの欲望を達成するために、私利私欲を動機として世界統一宗教に襲いかかるんですね。

世界統一宗教を倒すのは神の御心でした。なので、10の連合体と反キリストは、自分の欲望に基いて行動しているけど、それはより広い視点で見ると、神の御心の実現のためにこき使われているのに過ぎないのです。

人間が自分の自由意思に基づいて、やりたい放題やっているように見えても、実はそれすらも、神の善が実現するために用いられているに過ぎない。これが神の絶対的主権の意味です。

それが分かると、何か残念なこと、ガッカリすることがあっても、そんなに失望し過ぎることはないです。

“最善の神の最善は必ず最後実現するのだ”ということが、黙示録の時代ですらも起こっている。

これは、この時代に生きていた人たちの大きな励ましになったと思います。

そして、今の私たちにとっても励ましになるのではないかなと思いました。

今日は「どこがざっくりやねん！じっくりやないか！」というものすごい深掘りで…。

でも、これでもざっくりのほうなんです。次回はもっと複雑になるんですけど、もうちょっと分かりやすくなるように努力して、皆様の前に立ちたいと思いますので、ぜひまたいらしてください。

今日はご清聴ありがとうございました。

^^ ^^

* 使用した聖書は『聖書 新改訳 2017』

* 動画はYouTubeで「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」

* ラジオ番組「[聖書と福音](#)」（約15分）もぜひどうぞ。YouTubeもあります。

* YouTube「[ごうちゃんねる](#)」もぜひ見てください。